

## 別表 J-3 共同利用施設、観測機器、装置等一覧表（平成 29 年度）

本表の詳細版については共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/>) をご参照ください。

### (観測施設)

共同利用コード及び名称	観測施設に関する情報	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F1-01 筑波地震観測所 油壺地殻変動観測所 鋸山地殻変動観測所 和歌山地震観測所 広島地震観測所 弥彦地殻変動観測所 堂平地震観測所 信越地震観測所 富士川地殻変動観測所 室戸地殻変動観測所 本所周辺観測施設・観測設備	鋸山： <a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/ngy.html">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/ngy.html</a> 和歌山： <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/WSO/index.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/WSO/index.html</a> 富士川： <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/fujigawa/indexJ.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/fujigawa/indexJ.html</a> 室戸： <a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/Mrt/indexM.html">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/Mrt/indexM.html</a>	○観測開発基 盤センター長	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2017-F1-02 八ヶ岳地球電磁気観測所		○小河勉	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2017-F1-03 浅間火山観測所 小諸地震火山観測所 伊豆大島火山観測所 霧島火山観測所		○観測開発基 盤センター長	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時

### (野外观測機器等)

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番, 台数, 機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F2-01 衛星通信等を用いた全国地 震観測システムデータ受信 専用装置	<a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/data_jushin_riyou.htm">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/data_jushin_riyou.htm</a>	○酒井慎一	設置, 設定, 維持は利用 者で行うことが条件であ るが, 事前に担当教員と 打ち合わせる必要。別途, データ受信に関する利用 申請が必要。	随時
2017-F2-02 移動用地震観測機器 (衛星・地上テレメータ装 置, 地震計, データロガー)	<a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/vsat_riyou.htm">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/vsat_riyou.htm</a> <a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/chijo_souti.htm">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/chijo_souti.htm</a>	○酒井慎一, 岩崎貴哉	担当教員とよく連絡をと ること。特定共同研究で 使用中は利用できないこ とがある。	随時
2017-F2-03※ <a href="#">GPS 観測資材 2.7 式</a>	JAVAD 社製 GPS 受信機 SIGMA-G2T 型 JAVAD 社製 GPS アンテナ GrAnt-G3T 型	○加藤照之	事前に担当教員と打ち合 わせること。特定共同研 究で使用期間中は, 利用 を遠慮してもらうことが ある。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番, 台数, 機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F2-04 高精度広帯域 MT 観測装置	Metronix 社 1) 本体部 ADU07 観測装置 8 台, ADU07e 観測装置 1 1 台 2) 誘導コイル MFS06 2 4 本, MFS07 4 本, MFS06e 1 2 本, MFS07e 2 1 本  Phoenix 社 1) 誘導コイル MTC50 3 本  磁場 3 成分, 電場 2 成分を測 定可能. サンプル周波数は, ADU07(e)は 524KHz より 2^n Hz. Phoenix 社の装置は コイルのみ. あわせて, 電位測定用電極(ハ ンガリーMLタイプ), リチウ ムバッテリー, 大容量鉛蓄電 池(G&Yu SMF27MS-730)な どの付属品も多数貸出可能.	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合 わせること. 共同観測等 で使用中の期間を除く. 論文, 報告書等に利用し た旨を明記すること.	随時
2017-F2-05 長基線電位差測定装置	アドシステム社 8 チャンネル 20bit 地電位差測定装置 SES93 約 2 0 台と同社デー タ転送ユニット SESNET93 約 2 0 台 サンプル間隔は 0.1, 1, 10s.	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合 わせること. 共同観測等 で使用中の期間を除く. 論文, 報告書等に利用し た旨を明記すること.	随時
2017-F2-06※ <a href="#">海底地殻熱流量測定装置一 式</a>	複数の温度センサーを取り付 けたプローブを海底に突き刺 すことにより, 温度勾配を測 定し, 地殻熱流量を求めるた めの装置一式. 重錘, プローブ, 温度センサ ー, データロガー, ピンガー からなる. この他, 別途採取した海底堆 積物の熱伝導率を測定するた めの, 「迅速熱伝導率計」(京 都電子 QTM-500) も利用可 能である.	○山野誠	同種の装置の使用経験者 または共同研究に限る.	随時
2017-F2-07 可搬型広帯域地震観測シス テム(1)	広帯域地震計: CMG3T,STS2 収録計: REKTEK130 合計 40 セット	○川勝均	取得したデータは, 観測 終了後一定期間 (2-3 年) の後, 地震研究所・ 海半球観測センター・デ ータセンタから公開する こととする. 事前に担当教員と打ち合 わせること.	随時
2017-F2-08※ 可搬型広帯域地震観測シス テム(2)	ナネメトリクス社 (カナダ) 広帯域地震計 Trillium 120PA 保有台数 14 台	○及川純	事前に担当教員と打ち合 わせること.	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番, 台数, 機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F2-09※ <a href="#">絶対重力計</a>	Micro-LaCoste (米国) FG5 型絶対重力計 公称精度 1-2 microgal.	○大久保修平	事前に担当教員と打ち合 わせること.	随時
2017-F2-10※ <a href="#">ラコステ重力計および重力 解析ソフトウェア</a>	LaCoste & Romberg 社 (米 国) スプリング型相対重力計 (陸上用) 公称精度 10 microgal	○大久保修平	貸出しの際, 必要に応じ て講習を受けること.	随時
2017-F2-11※ <a href="#">可搬型強震観測システム</a>	可搬型強震観測システム (SMAR-6A3P 改) アンプ搭載筐体×16 台 (センサーは全てアカシ製 JEP-6A3P ; 1V/G) アンプ無し筐体×5 台 (センサーは全てアカシ製 JEP-6A3P ; 10V/G) ロガー 白山工業製 LS-7000XT×10 台 ロガー 白山工業製 LS-7000×10 台 ※ 筐体とロガーを組み合わ せて 1 式として貸し出しま す. ※貸出可能最大数 20 式 ※アンプゲインは 1, 20, 50, 100 倍と 0.1, 1, 10, 100 倍の 2 段組み合わせの掛け算となり ます.	○瀧澤 一起	事前に担当教員と打ち合 わせること. 論文, 報告書等に利用し た旨を明記すること. 論 文, 報告書等を送付する こと.	随時
2017-F2-12 火山ガス観測システム		○及川純	事前に担当教員と打ち合 わせること.	随時
2017-F2-13 超長周期電磁場測定装置	ウクライナ製フラックスゲー ト磁力計 MT 観測装置 LEMI-417 6 台 磁場 3 成分, 電場 4 成分を毎 秒で測定可能.	○上嶋誠, 清 水久芳	事前に担当教員と打ち合 わせること. 共同観測等 で使用中の期間を除く. 論文, 報告書等に利用し た旨を明記すること.	随時
2017-F2-14 高精度方位決定ジャイロ装 置	SOKIA 社製 GP1X 手動ジャ イロステーション 1 式 測定精度は 20 秒角	○上嶋誠, 清 水久芳	事前に担当教員と打ち合 わせること. 論文, 報告 書等に利用した旨を明記 すること.	随時
2017-F2-15※ <a href="#">深海用 3D 流向流速計測シ ステム</a>	NORTEK 社製 Aquadopp - 6000 m 1 台 ( <a href="http://www.nortek-as.com/en/products/CurrentMeter/Aquadopp6k">http://www.nortek-as.com/e n/products/CurrentMeter/A quadopp6k</a> ) 上記のドップラー方式流向流 速計とチタン球トランスポン ダシステムを組み合わせ, 流 速計へ外部電源供給すること で 10 秒間隔・1 年程度の観測 を可能とした, 自己浮上型の 海底観測システム. 流速計を 単体で使用することも可能.	○塩原肇	事前に担当教員と打ち合 わせること.	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番, 台数, 機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F2-16 高精度広帯域電場観測装置	NT システムデザイン社製 Elog1k 型広帯域 2 成分電場 測定装置 1024Hz, 32Hz にて 24bit で 電場を測定. 低消費電力 (1.8W)	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合 わせること. 論文, 報告 書等に利用した旨を明記 すること.	随時
2017-M-01 特定機器・レナーツ地震計 (1 Hz)	LE-3Dlite MkII 20 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ. 2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には, 前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること.	随時
2017-M-02 特定機器・広帯域地震計	Trillium-120PA 6 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ. 2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には, 前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること.	随時
2017-M-03 特定機器・低消費電力型デー タロガー	HKS-9700a-0505 20 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ. 2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には, 前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること.	随時
2017-M-04 特定機器・Centaur データロ ガー	6 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ. 2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には, 前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること.	随時
2017-M-05 特定機器・広帯域地震計	TS17840/Trillium-120PA 9 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ. 2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には, 前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること.	随時
2017-M-06 特定機器・地震火山観測用計 測ユニット	LF-1100R/LF-2100R 9 台	○観測開発基 盤センター	2 ヶ月未満の貸出のみ. 2 ヶ月以上の長期貸出を希 望する場合には, 前年度 6 月頃に行われる公募に 申請すること.	随時

(室内実験計測装置等)

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番, 台数, 機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F3-01 制御震源装置一式	<a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2016/09/2017-F3-01.pdf">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/ wp-content/uploads/2016/09/ 2017-F3-01.pdf</a>	○佐藤比呂 志, 石山達也	機器の取り扱いに習熟し ていること. 事前に担当 教員と打ち合わせが必要.	随時
2017-F3-02 地震火山情報センター計算 機システム	<a href="http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/computer/manual/eic2015/">http://www.eic.eri.u-tokyo.ac .jp/computer/manual/eic201 5/</a>	○地震火山情 報センター長	学術研究と認められない もの, 本所設置目的から 著しく外れているものは 利用できない. 詳細は本 センター利用規定による. 共同利用経費を必要と しない場合は, 直接本 センターに利用申請す る.	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番, 台数, 機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2017-F3-03 岩石破壊実験装置一式 荷重及び変位信号 AD 変換・ 処理装置	<a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/gijyutsubu/jikken/">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/ gijyutsubu/jikken/</a>	○吉田真吾, 中谷正生	事前に担当教員と打ち合 わせが必要.	随時
2017-F3-05 蛍光 X 線分析装置	RIGAKU 社製 走査型蛍光 X 線分析装置 ZSX Primus II <a href="http://www.rigaku.com/ja/products/xrf/primus2">http://www.rigaku.com/ja/pr oducts/xrf/primus2</a>	○中田節也, 安田敦	事前の講習会を受講して いること(年 2 回開催予 定). 実験用消耗品につい ては各自用意すること.	
2017-F3-06※ <a href="#">地震計測定震動台</a>	エミック社 振動試験装置 F-1400BD/LAS15 水平あるいは垂直の 1 軸電磁 式振動台	○新谷昌人	使用説明と日程等の調整 のため事前に担当教員に 連絡すること. 装置は自 己運転を原則とする.	随時
2017-F3-07※ <a href="#">レーザー発振装置</a>	ネオアーク社 波長安定化レ ーザー 波長 633nm の赤色光の安定 化レーザー光源	○新谷昌人	事前に担当教員と打ち合 わせが必要.	随時
2017-F3-08 全国地震データ等利用シス テム装置		○地震火山情 報センター長	全国の地震波形データ等 を整備し提供する装置. 地震観測を実施している 全国の大学に設置され共 同で運用されている. 担 当教員との相談による.	随時
2017-F3-09 カールフィッシャー水分計	京都電子工業株式会社製 カールフィッシャー水分計 (電量滴定方式) <MKC-610> <a href="http://www.kyoto-kem.com/en/product-category/karl/">http://www.kyoto-kem.com/e n/product-category/karl/</a> 鉍石用水分気化装置 <ADP-512> <a href="http://www.kyoto-kem.com/ja/product/adp512/">http://www.kyoto-kem.com/j a/product/adp512/</a>	○中田節也, 三部賢治	機器の取り扱いに習熟し ていること. 事前に担当 教員との打合せが必要. 実験消耗品については各 各自用意すること.	随時
2017-F3-10 湿式レーザー粒度分析計 (室内実験計測装置)	Sympatec 社製レーザー回折 式粒度分析装置 HELOS/KF-RODOS-QUIXE L システム <a href="http://www.sympatec.com/JP/LaserDiffraction/f-series/HELOS.html">http://www.sympatec.com/J P/LaserDiffraction/f-series/ HELOS.html</a>	○中田節也, 前野深	使用説明と日程等の調整 のために事前に担当教員 との打合せが必要.	随時
2017-F3-11※ <a href="#">温度計校正器一式</a>	フルーク社 1586A, 9142, 7103 他 恒温槽 (-30℃から 150℃) や 温度計の出力信号をスキャン する一連の機器	○中谷正生	使用説明と日程等の調整 のため事前に担当教員に 連絡すること. 装置は自 己運転を原則とする.	随時

※地震研共同利用 HP にて, 写真やカタログ等, より詳細な情報を掲載しています.

## 別表 J-4 データ及び資料一覧表（平成 29 年度）

地震研究所の「公開データベース」<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/publication/>もご参照ください。

共同利用コード及び名称	担当教員(○責任者)	利用条件, データ及び資料に関する URL 等	申請 期限
2017-D-01 WWSSN 地震記象マイクロ フィルム/フィッシュ	○古地震・古津波記録委 員会 (佐竹健治)	要予約. 用紙等については予約時に問い合わせ て欲しい. <a href="http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/wwssn/filmli&lt;br/&gt;st.html">http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/wwssn/filmli st.html</a>	随時
2017-D-02 歴史地震記象	○古地震・古津波記録委 員会 (佐竹健治)	原則としてマイクロフィルムを利用. 原記録は 職員立ち合いのもとで利用すること. <a href="http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/susu/">http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/susu/</a>	随時
2017-D-03 旧測候所報告・古新聞切抜 き・国際地震観測報告等	○古地震・古津波記録委 員会 (佐竹健治)	資料室でコピー可. 旧測候所報告: <a href="http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/record-J/inde&lt;br/&gt;x.html">http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/record-J/inde x.html</a> 国際地震観測報告: <a href="http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/record-W/ind&lt;br/&gt;ex.html">http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/record-W/ind ex.html</a>	随時
2017-D-04 観測開発基盤センター地震 データ	○観測開発基盤センタ ー長	大学間の取り決めに基づいて利用すること. 詳 しくは担当教員に問い合わせること. <a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/harvest/">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/harvest/</a>	随時
2017-D-05 衛星通信等を用いた全国地 震観測システムデータ受信 利用	○観測開発基盤センタ ー長	「衛星通信地震観測システムデータ受信利用規 定」に基づいて申請すること. (様式 S-1) <a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyo&lt;br/&gt;u/data_jushin_riyou.htm">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyo u/data_jushin_riyou.htm</a>	随時
2017-D-06 国立大学微小地震観測網カ タログ(JUNEC)	○地震火山情報センタ ー長	震源データは anonymous FTP で利用可. <a href="ftp://ftp.eri.u-tokyo.ac.jp/pub/data/junec/">ftp://ftp.eri.u-tokyo.ac.jp/pub/data/junec/</a> 検測データは大学間の取り決めに基づいて CD にて提供可. (ただし, 担当教員に利用申 請を提出のこと). 論文・報告書等には利用し た旨を明記すること.	随時
2017-D-07 浅間, 伊豆大島, 霧島, 富 士の火山データ	○火山噴火予知研究セ ンター長	事前に担当教員と打ち合わせるのこと.	随時
2017-D-08 広帯域地震波形データ(1)	○海半球観測研究セン ター長	特になし. <a href="http://ohpdmc.eri.u-tokyo.ac.jp/dataset/per&lt;br/&gt;manent/seismological/index.html">http://ohpdmc.eri.u-tokyo.ac.jp/dataset/per manent/seismological/index.html</a>	随時
2017-D-09 広帯域地震波形データ(2)	○鷹野澄	筑波, 白木等の広帯域地震計のための ERIOS システムで収録された広帯域地震波形データ. 観測点ごとに収録期間が異なるので, 利用希望 の際は, 事前に担当者に相談すること. データ フォーマットは ERIOS フォーマット.	随時
2017-D-10 新 J-array 地震波形データ	○地震火山情報センタ ー長	ホームページから利用可. <a href="http://jarray.eri.u-tokyo.ac.jp/">http://jarray.eri.u-tokyo.ac.jp/</a> 論文・報告書等には利用した旨を明記するこ と.	随時
2017-D-11 1993 年日光周辺域合同地 震観測データ	○観測開発基盤センタ ー長	1993 年合同観測参加者.	随時
2017-D-12 強震記録 (主として駿河湾, 伊豆半島観測網, 足柄観測 網のデータ)	○瀬藤一起	論文, 報告書等に利用した旨を明記すること. 論文, 報告書等を送付すること. <a href="http://smsd.eri.u-tokyo.ac.jp/smad/">http://smsd.eri.u-tokyo.ac.jp/smad/</a>	随時



共同利用コード及び名称	担当教員(○責任者)	利用条件, データ及び資料に関する URL 等	申請期限
2017-D-13 歴史地震の古文書及びその 解説文	○佐竹健治	特になし. 「東京大学地震研究所図書室特別資料データ ベース ( <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/dl/meta_public/G0000002erilib">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/dl/meta_public/G0000002erilib</a> )」のうち, コレクション名 02 (-1, 2, 3)の地 震史料のオリジナル(複写)と解説文	随時
2017-D-14 地球電磁気データベース	○上嶋誠, 歌田久司	事前に担当教員と打ち合わせること. 論文, 報 告書等に利用した旨を明記すること.	随時
2017-D-15 八ヶ岳地球電磁気観測所速 報データ	○小河勉	事前に担当教員と打ち合わせること. 論文, 報 告書等に利用した旨を明記すること.	随時
2017-D-16 地殻熱流量データセット	○山野誠	特になし. 日本列島を含む北西太平洋地域の地殻熱流量 データをまとめたものである. 対象範囲は北緯0~60度, 東経120~160度で, フィリピン海, 日本海, オホーツク海の全域を カバーしている. データファイルに含まれる項 目は, 測点名, 緯度・経度, 標高または水深, 温度測定点数と最大深度, 温度勾配, 熱伝導率 とその測定数, 熱流量, 及び文献とその出版年 である. 原則として, 公表されている測定値を そのまま収録しているが, 熱流量の値が0以下 のものは除いてある. 潜水船・ROV を用いて 測定した値, 及びガス・ハイドレートによる音 響反射面の深度から推定した値は含めていな い.	随時
2017-D-17 日本全国空中写真	○図書室	活断層調査や地震・火山・テクトニクスなどの 研究のためであること. 図書職員に申し出て利 用すること. <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/airphoto/shiryou_ushitu.htm">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/airphoto/shiryou_ushitu.htm</a>	随時
2017-D-18 津波波形画像データ	○古地震・古津波記録委 員会(佐竹健治)	地震研の公開データベースの津波波形画像検 索システム <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tsunamidb/">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tsunamidb/</a> より申請して利用すること. 利用資格は地震研 究所共同利用に準ずる.	随時
2017-D-19 首都直下地震防災・減災特 別プロジェクトデータ	○平田直, 酒井慎一	事前に担当教員と打ち合わせること. <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/shuto/index.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/shuto/index.html</a>	随時
2017-D-20 超伝導重力計観測データ	○今西祐一	事前に担当教員と打ち合わせること. 論文, 報 告書等に利用した旨を明記すること.	随時
2017-D-21 都市の脆弱性が引き起こす 激甚災害の軽減化プロジェ クトデータ	○平田直, 酒井慎一	事前に担当教員と打ち合わせること. <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/toshi/">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/toshi/</a>	随時